

2025年の重大ニュース

毎年この時期のCBCA NEWSは、その年の振り返りをコラム記事としております。今年は、印象に残るニュースが例年以上に多かったような気がします。そんないろいろあった中から、5つの事象をピックアップさせて頂きました。

✚ トランプ関税

今年前半の世界経済を席巻したトランプ関税。米国の貿易赤字解消の名目で、最初にとても高い条件を相手国に突き付け、交渉を優位に進めるやり方は、まさに商人ドナルド・トランプの得意とするディールそのものでした。

横暴ともいえる米国のやり方に世界から非難の声が上がりはしたもの、その後の交渉結果はほぼ米国の狙い通りになりました。日本をはじめ、なぜ各国が一致団結して米国に強く抵抗しようとしなかったのか理解に苦しみますが、裏を返せば、それだけ米国市場が各国において重要なマーケットなのでしょう。少しぐらい無茶を言われても、我慢していれば「おいしい」果実を落としてくれる、決して手放したくないお客様なのです。思うに、来日したトランプ大統領を日本の財界トップが揃って出迎える様は、さながら大得意様を出迎える営業マンのようでした。

ところで、トランプ関税により世界経済は大きな打撃を受けると予測したシンクタンクは少なくなかったのですが、そうはなりませんでした。なぜなのか、納得いく理由を聞かせてほしいです。

✚ 熊被害

今年前半に最も頻繁に扱われたニュースが「トランプ関税」なら、後半は「熊被害」ということになるでしょうか。東日本を中心とした広域で熊が頻繁に出没し、住民が襲われる事例が相次ぎました。秋田県秋田市の千秋公園、岩手県盛岡市の岩手銀行本店、北海道札幌市の円山公園といった市街地中心周辺でも熊の出没が確認されており、近隣住民の日常生活を脅かしました。

今回、熊がとても凶暴な動物であることを思い知らされました。今まで「くまのプーさん」や「森のくまさん」のように、おとなしくてどこか愛嬌のある動物のイメージがありました。ところが、住民をいきなり襲ってくる姿が頻繁に報じられ、熊が獰猛で危険な動物であることを多くの国民が認識したことでしょう。可哀そうではありますが、適正な個体数まで減らさない場合には熊とヒトとの共存は難しいだろうと思います。

ところで、いまだに熊を殺すなど苦情を入れる方々は、どのような解決策をお持ちなのでしょうか。妙案があるならぜひひぜひ教えてほしいです。

✚ 大阪・関西万博

終わってみれば大成功と評される「大阪・関西万博」でした。広大な土地にゆとりをもって建築された多種多様なパビリオン、そして会場をシンボリックに包み込む巨大な大屋根リング、そのスケールの大きさに圧倒され、こころ踊った来場者の方も多かったのではないでしょうか。筆者はその会場に足を入れて直ぐさま感動し、来てよかったですと素直に思いました。

大屋根リングの上から会場を見渡すと、その壮大さが一段と実感できました。正直、パビリオンの中身なんて何でもよかったですかもしれません。その唯一無二の空間こそが、この万博の最大の魅力だったように、個人的には思います。

ところで、気が付けばいつの間にか大人気キャラクターになっていた「ミャクミャク」。最初は気味が悪いと言っていた方々（私も含めて）、どうして可愛く思えてきたのでしょうか。不思議ですね。

■ インフレ

物価の上昇が止まりません。消費者物価は年率3%の上昇が既に3年以上続いています。食品においては年6%の上昇が続き、そしてコメ価格は1年間で約2倍に跳ね上がりました。

株式や不動産といった資産価格も激しく上昇しています。日経平均株価はこの3年間で2倍近くまで値上がりしました。不動産においては、東京や大阪の中心地のマンション価格が著しく上昇しています。都心のマンションは、新築どころか中古でも1億円越えが当たり前になりました。

インフレに対する政府のスタンスは微妙です。年2%のインフレ目標を掲げる政府・日銀は、年3%のインフレが3年以上続いているにもかかわらず2%のインフレはまだ定着していないとの見解で、緩和的な金融政策を続けています。その一方で、物価高対策と評した給付金を政府はばらまき続けています。つまり、インフレを抑えるつもりはないけれど、国民の怒りがこれ以上高まるのは避けたいとのスタンスです。

ところで、来年の住宅ローン減税は、減税額や対象範囲が大きく拡大されるようです。もちろん、住宅価格の上昇に対応し購入者負担を軽減するのが目的ではあるのですが、億ションを購入できるひとの費用を税金で補助するとは、日本の財政は余裕があるのですね。財務省さん？

■ 高市政権誕生

高市早苗氏が女性初の内閣総理大臣に任命されてから、はや2か月。就任直後から高い内閣支持率を得てスタートした高市政権ですが、直近においてもその人気に陰りは感じられません。一方で、自民党の支持率はそれほど回復しておらず、高市首相が人気を独占している状態です。

高い支持率の理由のひとつとして、高市氏の首相就任前後の演説や記者会見が、国民の目に新鮮かつ好意的に映ったことが大きく影響しているのではと、筆者は考えています。

高市氏のスピーチは、聴く人々を意識しながら、凛とした姿勢で、穏やかな笑みをたたえつつ、分かりやすい言葉で、ゆっくりと丁寧に、それでいて力強く、いわばプレゼンテーションのお手本のような出来栄えのものでした。

比較して歴代の総理はというと、ややもすれば無表情で、一般的ではない難しい表現を多用し、人に聴かせるというよりは儀式を済ませるといった風情で、聴衆のこころに響くものは少なかったように思います。例えば、石破前首相などは、身なりのだらしなさがしばしば指摘され、無表情なスピーチで、持って回った言い回しが多く、お世辞にも好感度が上がる姿には映りませんでした。

ここまで違うと国民が受ける印象は大きく変わります。頼もしそうな新総理だ、高市首相なら期待ができるかもしれない、との気持ちになるのは至極当然でしょう。

さて、高市首相の台湾有事を巡る発言を契機に、中国との外交問題が浮上しています。首相が今後何を重視して政治・外交を展開していくのか、そして今の国民がリーダーに何を求めるのか、その試金石として大いに注目したいところです。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒105-0012
東京都港区芝大門1-1-32
御成門エクセレントビル8階

TEL: 03-6459-0161 FAX: 03-6435-7717
mail_jimukyoku@cbca.jp http://www.cbca.jp

お問い合わせ先